

笛吹市クリーンセンター脱臭ファン更新工事

発 注 仕 様 書



令和 7 年 度

笛吹市市民生活部環境推進課

目 次

第1章 総 則

第1節	工事概要-----	1
第2節	一般事項-----	1
第3節	工事関係図書-----	3
第4節	工事の現場管理-----	3
第5節	機器及び材料-----	5
第6節	施工-----	7
第7節	工事検査-----	8
第8節	完成図書-----	9
第9節	脱臭ファンの保証について-----	9
第10節	その他-----	9

第2章 機械工事

第1節	機械一般事項-----	1 0
第2節	材 料-----	1 1
第3節	電気工事-----	1 1
第4節	塗装工事-----	1 3
第5節	保温が必要とする工事の場合-----	1 4
第6節	仮設工事（足場・養生）-----	1 5
第7節	器機の整備及び据付工事-----	1 5

第3章 特記仕様

第1節	脱臭ファン更新工事-----	1 6
第2節	脱臭ファン工事仕様-----	1 7

第1章 総 則

本仕様書は、笛吹市（以下「市」という。）が発注する笛吹市クリーンセンター施設の脱臭ファン更新工事（以下「本工事」という。）に適用する総括的事項であり、受注者が本市の施設内での工事を遂行するうえで必要な事項を定めるものである。

第1節 工事概要

1. 工事目的

本工事は昭和60年度に設置した脱臭設備の施設の臭気を誘引する脱臭ファンが老朽化により、今後の脱臭設備の稼働に万全を期するために更新工事を行うものである。

この更新工事にあたり、安定した性能並びに維持管理のコストに優れた設備を設置するものである。

2. 工事名

笛吹市クリーンセンター脱臭ファン更新工事

3. 工事場所

山梨県笛吹市石和町砂原936-2

4. 工事対象設備

笛吹市クリーンセンター脱臭ファン、

(1) 第1脱臭ファン 1台

(2) 第2脱臭ファン 1台

5. 工 期

契約日の翌日から令和8年3月9日

第2節 一般事項

1. 適用範囲

(1) 本仕様書に規定する事項は、別に定める場合を除き、受注者の責任において履行するものとする。

(2) 本仕様書は、本工事の基本内容について定めるものであり、施工上又は脱臭ファンの性能を発揮させるために当然必要と思われるものについては、仕様書等に明記されていないものであっても、受注者の責任

において施工するものである。

- (3) 受注者は、工事着工前に施設全体の状況を確認し、設計図書に示された工事内容では、本工事の目的を満足することができないと判断される場合は、監督員と協議するものとする。

2. 疑義に関する協議等

設計書に定められた内容の疑義について、現場の納まり、取り合い等の関係で、設計図書による困難又は不都合な場合が生じたときは、監督員と協議するものとする。

ただし、軽微なもの、もしくは本仕様書に明記されていない事項であっても工事の施工上当然必要なものは、本市の指示に従い、受注者の負担で施工するものとする。

3. 発生材の処理等

発生材の再利用、再生資源化及び発生資源の活用に努める。

発生材の内、有価物となるものは市が別途売却するので区分して保管すること。

発生材の処理を行う場合は、再資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、建設廃棄物適正処理推進要綱に基づき適切に処理し、第3者に損害を与えることのないようにする。

4. 工事電力及び用水

本工事に必要な電力、用水は基本的には発注者側で供給するが、大量の電力、用水等を必要とするときは別途協議するものとする。

5. その他

- (1) 受注者が本仕様書の定めを遵守しないために生じた事故は、検査終了後であっても受注者の負担において処理しなければならない。
- (2) 本工事の工程上又は施工上において、施設の稼働及び業務に支障が生じないように本市と協議の上必要な処置を講じなければならない。

第3節 工事関係図書

1. 実施工程表等

- (1) 本工事の着手に先立ち、工程表を作成し、監督員の承諾を得る。
- (2) 本工事の着手に先立ち、工事の計画書をまとめた施工計画書を作成し、監督員に提出する。
- (3) 機器、機材、工法、品質管理などを具体的に定めた施工計画書を作成し、監督職員の承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
- (4) 施工契約書の内容を変更する必要がある場合、監督員に報告するとともに、施工等に支障がないよう適切な措置を講じる。

2. 施工図書等

施工図書等を当該工事に先立ち作成し、監督員の承諾を受ける。

3. 工事記録

- (1) 監督員と協議した結果について、記録を整備する。
- (2) 本工事の全般的な経過を記録した書面を作成する。
- (3) 本工事の施工に際し、試験を行った場合は、直ちに記録を作成する。

4. 工事写真

受注者は工事完了検査日までに、本工事記録写真を3部作成し、本市に提出しなければならない。

第4節 工事の現場管理

1. 施工管理等

- (1) 受注者は、設計図書に適合する本工事を完成させるために、施工管理体制を確立し、品質、工程、安全等の施工管理を行う。

- (2) 本工事施工に携わる下請請負人に、工事関係内容を周知徹底する。
- (3) 本工事請負契約書に規定する現場代理人並びに主任技術者又は技術管理者を定め、工事着手前に監督員の承諾を受ける。
- (4) 本工事に係る現場代理人については、管理運営に必要な知識と経験を有するものでなければならない。
- (5) 現場代理人は、法規等に従い遺漏なく現場の管理を行わなければならない。
- (6) 現場代理人は、工事現場で工事担当技術者、下請者等が工事関係者であることをヘルメット、着衣、ネーム、徽章等で明瞭に識別できるようにしなければならない。
- (7) 現場代理人は、工事現場において、常に清掃及び材料、工具その他の整理を行わなければならない。また、火災、盗難その他災害事故の予防対策について万全を期さなければならない。

2. 工事中の安全確保及び環境保全

- (1) 建築基準法、労働安全衛生法、環境基本法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法その他関係法令に従い、建築工事公衆災害防止対策要綱及び、建築副産物適正処理推進要綱に従い。工事施工に伴う災害防止及び環境の保全に努める。
- (2) 工事現場の安全衛生に関する管理は、現場代理人が責任者となり建築基準法、労働安全衛生法、その他関係法令等に従ってこれを行う。

3. 養生

既存施設部分（脱臭ファンの基礎、架台）工事目的の施工済み部分等については、汚染又は損傷しないよう適切な養生を行う。もし、汚染又は損傷が発生した場合は、速やかに本市に報告するとともに、本

市の指示に従い復旧しなければならない。

4. 後片付け

本工事の完成に際しては、当該工事に関する部分の後片付け及び清掃を行うこと。

第5節 機器及び材料

1. 機器及び品質等

- (1) 工事に使用する機器及び材料（以下「機材」という。）は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。
- (2) 使用する機材が設計書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を監督職員に提出する。
J I S、J A Sマーク等に適合することを示す認証機関のマークのある機材を使用する場合並びにあらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、資料の提出を省略できる。
- (3) 本仕様書に明示されている機材のうちで、受注者の理由によりこれを変更したい場合は、機能に支障がなくかつ機材の全体としての性能が設計仕様を十分に満足する場合は、本市の承諾を得て使用することができる。
- (4) 配管等の保温材を取り外す工程が含まれる場合は、復旧は本仕様書に特記のない限り、取り外す前と同仕様とする。
- (5) ボルト、ナットの見取に際しては、材質、寸法及び形状等に留意し、相対の機能及び性能を低下させる恐れのあるものは使用してはならない。
- (6) アスベスト（石綿）製品は使用してはならない。
- (7) 塗装には、仕上げの程度、色合い等はあらかじめ見本を提出し、事前に本市と協議を行うこと。

2. 工事資材の搬入・検査

工事資材の搬入ごとに、監督員に報告し、機材の種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、前もって監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。

工事用資材は、検査に合格したものでなければ使用してはならない。又、試験に要する費用は受注者の負担とする。

(1) 資材検査の内容

- ア 関係法令及び市の定める規格の適合
- イ 材質、加工、構造、主要寸法及び数量
- ウ その他必要と認めたもの
- エ 方法及び項目については事前に協議を行うものとする。

(2) 脱臭ファンの製作の材料検査方法及び項目については事前に協議を行うものとする。

(3) 本体の特殊な部品の試験は、原則として試験を本市の立ち会いのもとで行い、その試験成績表を提出すること。

3. 資材の保管

搬入した資材は、工事に使用するまで変質等がないように保管する。本市の検査に合格後の資材であっても、保管中に損傷その他の欠陥を生じ仕様書に不相当と認められるものは、本市の指示に従い交換し、再検査を受けなければならない。

検査後の資材は、現場での取り扱いに十分な注意を払い、不用意に野外に放置したりしてはならない。塗料、モルタル付着等により資材に損じることのないよう、保護など必要な措置を講じなければならない。

4. 支給資材

支給資材が有る場合は設計書に明示する。支給資材に過不足を生じた場合は、本市と協議の上、もしくはその指示に従い返納又は補充し

なければならない。

なお、支給資材の受け渡し場所は、原則として笛吹市クリーンセンターの敷地内とする。

5. 市の保有機器、工具等の使用

受注者は、市の所有する現場の機器、工具等について、この仕様書で特記がない限り使用してはならない。ただし、市が工事施工上やむを得ないと認めた場合は、本市の指示によりこれらの機器、工具等を使用する事ができる。

第6節 施工

1. 施工について

施工は、設計図書等並びに監督員の承認を受けた実施工程表、施工計画及び施工図等に従って行う。

2. 工程ごとの施工の進捗状況確認及び報告

工程ごと施工を完了したとき又は工程の途中において監督員より指示された場合は、その施工が設計図書に適合することを確認する。又、適時、監督員に報告すること。

3. 施工の検査等

- (1) 設計書に定められた場合、工程ごとの施工完了したとき及び監督員より指示された工程に達した場合は、監督員の検査を受ける。
- (2) 本市は、工事施工に際し、工事等に使用する機械器具資材のうち特に必要があるときと認めたものは、施策工場等において、立ち会い検査及び試験を行う。受注者は、その試験成績書を提出する。また、この検査及び試験に必要な一切の経費は受注者の負担とする。
- (3) この仕様書で特記のない限り、分析、試験は受注者の責任において行うものとする。ただし、対象とする供試体の取り外し及び

工事場所での試験には、本市の立ち会いを求めなければならない。

4. 施工の立会等

つぎの場合は監督員の立会を受ける。ただし、これによることが困難な場合は、別に指示を受ける。

- (1) 設計図書に定められている場合。
- (2) 主要機器（脱臭ファン）を設置する場合。
- (3) 施工後に検査が困難な箇所を施工する場合。
- (4) 試運転を行う場合。
- (5) 監督員が特に指示する場合
- (6) 監督員の立会が指定されている場合は、適切な時期に監督員に対して立会の請求を行うものとし、立会の日時等については監督員の指示を受ける。

第7節 工事検査

本工事契約書に規定する工事を完成したときの通知は、下記に示す要件の全てを満たす場合に監督員に提出することができる。

- (1) 設計図書に示す全ての工事が完了していること。
- (2) 監督員の指示を受けた事項が全て完了していること。
- (3) 設計図書に定められた工事関係図書及び記録の整備が全て完了していること。通知又は設計図書に基づく工事完了検査は、本市から通知された検査日に検査を受ける。

第8節 完成図書

工事が完成したときは、完成図書及び機器保全に関する資料等を作成し、監督員に提出する。

機器保全に関する資料はつぎによる。

- (1) 各設備の機能が十分発揮しうるよう主要機器を含めた脱臭ファンの取り扱い及び保守についての事項を記載したもの。
- (2) 各機器の性能、作動試験等を記載したもの。提出部数は5部とする。

第9節 脱臭ファンの保証について

脱臭ファンの機械及び付属設備の保証期間は、**竣工検査合格後2年間**とする。ただし、消耗品及びその取替費用は保証内容に含まないものとする、保証期間中に生じた施工及び材質の欠陥による破損、故障等については請負者の負担にて速やかに補修、改造又は取替を行うこと。

第10節 その他

本工事は、既設の処理を継続しながらの工事となるため、施工期間については、休日及び祭日を利用しての最短で3日の日程で施工するか、平日施工する場合は、第1脱臭ファン（8時間系）を先に施工して完了後、24時間ダクトを開き臭気対策を図り第2脱臭ファンを施工すること、なお、搬入処理業務の脱臭処理に支障がないように行うこと。

第2章 機械工事

第1節 機械一般事項

1. 一般事項

本事項に規定なきものは国土交通省公共建築工事の「標準仕様書機械工事編」及び「標準図機械設備工事編」に準じる。

2. 主要機械の組立てについて

脱臭ファンの製作には組立て及び品質について次のことに十分留意すること。

- (1) 溶接接合方法は、すみ肉溶接によって行う。
- (2) 突き合わせ溶接に当たっては、開先加工又は面取りを適正に行い十分な溶け込みを確保すること。
- (3) 溶接工は資格を有した者又は監督職員が同等以上の技量を有すると認めた者とする。
ただし、軽易な作業と監督職員が認め、承認を受けたものについては、その限りでない。
- (4) 溶接作業環境は必要な設備と作業環境を備えなければならない。
- (5) 自動溶接を行う者は、自動溶接機、溶接方法に十分熟知し、かつ、十分な技量及び経験を有した者で監督職員が認めた者とする。
- (6) 溶接方法は、被覆アーク溶接、ステンレスはT I G溶接等もしくは監督職員の承認を受けた、半自動溶接、自動溶接又はそれらの組み合わせによって行う。
- (7) 塩ビ溶接は接着剤を用いずに塩ビ性のモノ同士を熱によって溶解させ、同じ材質の塩ビ性溶接棒によって接着よりも強固に固定もしくは溶着させること。

3. 脱臭ファンと既設ダクトの接続について

- (1) 更新する第1、第2脱臭ファンとの吸入側、吐出側の配管接続は、既設ダクト配管の寸法、高さに合う仕様のファンを選定すること

- (2) 既設のファン配管接続に、相違がある機種を選定した場合の、ダクト配管は実寸に合わせて第 1、第 2 脱臭ファン共に、ダクトの取合い調整をして接続すること。

第 2 節 材 料

1. 棒鋼、形鋼、鋼板、平鋼等はすべて形状が正しいもので、特に品質規格が定められていないものは J I S 規格品等によるものとし、錆のないものとする。
2. ボルト及びナット、座金の材質は、脱臭ファンの本体部は既存の材質及び同等品とする。

第 3 節 電気工事

1. 本工事で規定なきものは国土交通省公共建築工事の「標準仕様書機械工事編」及び「標準図機械設備工事編」に準じる。
2. 電線の接続は既設の配線を使用しても良いが延長等には次の仕様とする
 - (1) 金属管、P F 管、C D 管、硬質ビニル管、金属製可とう電線管、フロアダクト、1 種金属線等の内部では、電線を接続してはならない、また、金属ダクト、2 種金属線等の内部では、点検できる部分を除き電線を接続してはならない。
 - (2) 電線の途中接続はなるべく避ける。ただし、平形保護層配線の場合は除く。
 - (3) 絶縁被覆のはぎ取りは、心線を傷つけないように行う。
 - (4) 心線相互の接続は、原則として圧着スリーブ、電線コネクタ、圧着端子の電線に適合した接続金具を用いる。
 - (5) 絶縁電線相互及び絶縁電線とケーブルとの接続部分は、絶縁テー

ブ等により、絶縁被覆と同等以上の効力があるように巻き付けるか、又同等以上の効力を有する絶縁物を被せる等の方法により絶縁処理を行う。

- (6) 電線と機器端子との接続は、電氣的及び機械的に確実に行い、接続点に張力の加わらないように接続する。
- (7) 接続は十分締め付け、振動等により緩むおそれのある場合は、二重ナット又はバネ座金を使用する。
- (8) 機器の端子にターミナルプラグを用いる場合は、端子に適合したターミナルラグを使用して接続するものとする。
- (9) 機器の容量が電線の電流容量より小さいときは、機器の容量に相当するまで素線を減線することができる。

3. 金属管配線

- (1) 電線は、I V、E M－I E 電線とする。
- (2) 電線管の太さは、電線の断面積に適合したものとし、端口及び内面は、電線被覆を損傷しないような滑らかなものとする。
- (3) 付属品は、管及び施設場所に適合したものとする。
- (4) 管の埋め込み又は建造物の構造物及び強度に支障ないように行う。
- (5) 管の切り口は、リーマ等を使用して平滑にする。
- (6) ボックス類は、造営材その他に頑固に取り付ける。なお、点検できない場所に施工してはならない。
- (7) 分岐回路の配管の1区間の屈曲場所は、4箇所以下とし、曲げ角度の合計が270度を超えてはならない。
- (8) 管の曲げ半径は、管内径の6倍以上とし、曲げ角度は90度を超

えてはならない。ただし、管の太さが25mm以下の場合で、工事上やむを得ない場合は、管内断面積が著しく変形せず、管にひびわれが生じる恐れのない程度まで管の曲げ半径を小さくしてもよい。

- (9) 管の支持は、サドル、ハンガ（SUS仕様）等を使用し、その取り付け間隔は2m以下とする。ただし、管ボックス等との接続点に近い箇所及び管端を固定する。
- (10) コンクリート埋め込みとなる管路は、管を鉄線で鉄筋に固定し、コンクリート打ち込み時に容易に移動しないようにする。
- (11) 露出配管の布設は、管を支持する金物は鋼製とし、管数、管の配列及びこれを支持する箇所の状況に応じたものとする。
また、管を支持する金物は、スラブその他の構造体に堅固に取付、雨にかかる場所での管端は、下向きに曲げ、雨水が浸入しないようにする。なお、室内においても清掃時の洗浄水等がかかる場所についても同様とする。

4. 制御盤及び操作盤

- (1) 更新する脱臭ファン設備の制御関係は、既設の脱臭ファン設備の制御盤及び操作盤を使用すること。
- (2) 本体脱臭設備との連動を行う結線には十分に注意を図ること。
- (3) その他ドアを閉めた状態で、電源配線部が露出してはならない。

第4節 塗装工事

- 1. 塗装は仕様書に特記のある場合以外は原則として、亜鉛メッキ面、樹脂コーティング面、アルミニウム、銅、合成樹脂等、塗装の必要を認められない面には施工しない。
- 2. 塗装場所が気温5℃以下、湿度が85%以上又は換気が不十分な場合、屋外で降雨のおそれがある場合、又、強風等で塗料の飛散のおそれがある場合、その他監督職員が塗装作業に適さないと判断し

たときは、作業は施工してはならない。

3. 塗装作業を行う際は、排風機等により換気をよくし、溶剤等による中毒の防止、引火性塗料の場合の発火、爆発、火災等の事故防止に努めること。必要に応じて掲示板、垂れ幕等により周知を徹底すること。
4. 一般鋼材、配管等の補修箇所の塗装は、特記のある場合を除き、下地処理として、錆、スラグ、汚れなどを清掃後、原則として調合ペイントを用いて行い、さび止め塗装、上塗り塗装各 1 回とする。工事箇所周辺も適宜在来塗装と同等色の塗料を 1 回塗装する。また、使用環境、状況に応じて、耐熱、耐酸塗料等も使用する。なお、亜鉛メッキ配管の溶接、ねじ切り作業等を行ったときはメッキ剥離箇所にローバル塗装等を施す。
5. 塗料は、特に浸食の激しい箇所についてはエポキシ樹脂塗装を施すこと。

第 5 節 保温が必要とする工事の場合

1. 保温板を用いる場合は、保温面を清掃し、所定の寸法の保温板を亜鉛メッキ鉄線、バンド等で密着させる。また、各層の縦横の継ぎ目は、同一箇所にならないように施工する。
2. 外装はカラー鉄板（JIS G-3312）を原則として用い、こはぜ止め、鉋止め、又はビス止め等とする。大型のダクトで鉄線、バンドにて保温材を密着できない場合は、支持ボルトを溶接し、これを利用し、保温材及び外装を固定すること。
3. 屋外に設置する場合は、雨水等が浸入しないように外装の継ぎ目には十分なコーキングを行うとともに、支持ボルトの貫通部にはゴムパッキン等を使用すること。
4. 屋外に施工する場合においても原則として屋外用の外装材にて被覆すること。

第6節 仮設工事（足場・養生）

1. 器機整備据付工事等において、作業用足場が必要と認められる場合は、労働安全衛生法に基づく鋼管又は木材による構造上丈夫な作業足場を設置する。
足場の組立、解体作業に当たっては、同法に規定された資格を有する作業主任者を選任して行うこと。
2. 工事中、物体が落下又は飛来して作業に危険を及ぼすおそれのある場合は、もしくは他の建物器機等に損害を与えるおそれがある場合は、作業者に保護具を着用させ、防止網、シート等の設置等、危険防止及び建物器機の損傷防止のための養生処置を行う。

第7節 器機の整備及び据付工事

1. 整備する器機の部品の材質・精度は、特記のない時は在来品と同等のものとする。
2. 器機を分解整備するときは、他の箇所に損傷を与えないよう注意するとともに、状況に応じて適切な分解工具を使用し、軸、鋳物部品等に衝撃を与えないようにする。損耗した部分は取替を行い、順序よく組立、整備した器機は、当初の性能を十分発揮できるようにする。取り替えた部品等については、整理し、監督職員の確認を受けた後処分する。
3. 増設又は整備完了した器機の据え付けは、基礎ボルトの位置を正確に出し、器機据付施工仕様に基づいて入念に据付をする。回転機器等で振動を生じる恐れのあるときは、基礎ボルトは原則として基礎ベースの鉄筋等に直接、確実に溶接する。

第3章 特記仕様

第1節 脱臭ファン更新工事

1. 第一・第二ファン更新共通事項

- (1) 用途：8 時間系（既設制御盤時間設定）・24 時間系の稼働とする

脱臭ファン。

- (2) 現有の脱臭ファンを撤去して、その位置に取付ダクト配管との高低差を考慮して脱臭ファンを据え付けること
- (3) 据付方法については仕様書を参照すること。
- (4) 機種選定は現状の機械と同等以上の性能を有する機械を更新する。
- (5) 据付には防振ダクト、防止架台を新規に設置にすること。
- (6) 取付ボルトは強度を求められるハイテンションボルト仕様としそれ以外は、SUS 304を使用すること。
- (7) オイル、グリス等の油類補給には、容易に作業できる構造とすること。
- (8) 脱臭ファンの制御盤電源の接続は現有の制御盤からの動力線及び制御回路の改造等を行わず、現有の配線をそのまま使用して更新する脱臭ファンの端子に接続すること。
- (9) 既設防音箱は、そのまま使用するものとする。
- (10) 更新する脱臭ファンの取付は、脱臭ファンの接続部の臭気のリークに特に留意すること。
- (11) 捕集する臭気の悪臭物質は次とおりとする、したがって、これに耐える材質の仕様とする

アンモニア、硫化水素、メチルメルカプタン、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、スチレン

第2節 脱臭ファン工事仕様

1. 第1脱臭ファン仕様

送風機運転条件

- | | | | | |
|-----|------|-------------------------------|------------|----|
| (1) | 用途 | 脱臭用 | 台数 | 1台 |
| (2) | 風量 | 100m ³ /分以上・取扱ガス | 臭気 | |
| (3) | 静圧 | 1.67kPa・170mmH ₂ O | | |
| (4) | 吸込口径 | 465mm | | |
| (5) | 吐出口径 | 538mm×260mm | | |
| (6) | 回転方向 | 右回転・上吹出し・回転数 | 約2080rpm/分 | |
| (7) | 伝動方式 | Vベルト駆動 | | |
| (8) | 軸封方式 | ラビリンス (PTFE2枚) | | |
| (9) | 軸受方式 | オイルバス方式 | | |

主要材質

- | | | |
|------|----------|--|
| (1) | ケーシング | FRP |
| (2) | 軸封 | テフロンシート (PTFE) |
| (3) | インペラー | FRP |
| (4) | シャフトスリーブ | FRP |
| (5) | シャフト | S45+接ガス部 FRP ライニング |
| (6) | 防振方式 | ゴム |
| (7) | 設置方式 | 床置き |
| (8) | 付属品 | Vプーリー・Vベルト・ベルトガード |
| (9) | 電動機 | 3φ AC200V 4P 5.5kW 50Hz
形式 全閉外扇屋外 (IE3) 型 |
| (10) | 運転時間 | 8Hr/D |
| (11) | 指定色 | マンセル 2.5G6 |
| (12) | 保証期間 | 保証は2年とする |

2. 第2脱臭ファン仕様

送風機運転条件

- (1) 用途 脱臭用 台数 1台
- (2) 風量 $50\text{m}^3/\text{分}$ 以上・取扱ガス 臭気
- (3) 静圧 $1.67\text{kPa} \cdot 170\text{mmH}_2\text{O}$
- (4) 吸込口径 320mm
- (5) 吐出口径 $270\text{mm} \times 220\text{mm}$
- (6) 回転方向 右回転・上吹出し・回転数 約 $2570\text{rpm}/\text{分}$
- (7) 伝動方式 Vベルト駆動
- (8) 軸封方式 ラビリンス (PTFE2枚)
- (9) 軸受方式 オイルバス方式

主要材質

- (1) ケーシング FRP
- (2) 軸封 テフロンシート (PTFE)
- (3) インペラーFRP
- (4) シャフトスリーブ FRP
- (5) シャフト S45+接ガス部 FRP ライニング
- (6) 防振方式 ゴム
- (7) 設置方式 床置き
- (8) 付属品 Vプーリー・Vベルト・ベルトガード
- (9) 電動機 $3\phi\text{AC}200\text{V}$ 4P 3.7kW 50Hz
形式 全閉外扇屋外 (IE3) 型
- (10) 運転時間 24Hr/D
- (11) 指定色 マンセル 2.5G6
- (12) 保証期間保証は2年とする